

シリーズ：学校現場から悲鳴が聞こえる 第10回

「教育予算の充実を」

前号では授業料を始めとした教育費に触れ、経済格差と教育格差の問題等を語っていただきました。経済的困窮から学校を辞めざるをえない生徒の様子は生々しく、多くの読者も胸が痛む思いだったのではないかと思います。

学校事務職の仕事は多岐にわたっていますが、今回は勤務の実情を中心に伺いました。

記者「20年くらい前からでしょうか、教員からは、コンピューターの導入でむしろ多忙に拍車がかかったと言われ始めました。やたらとデータ作りが増え、県教委からの調査報告も増えました。事務職員としてはどうですか。」

Mさん「確かに先生方を見ていると成績処理や県教委からの調査報告で四六時中パソコンとにらめっこしている姿を見ますね。事務職も同じようにメールによる調査依頼がよくあります。しかも中には当日のうちに報告せよというのもあります。書類を調べればすぐにでも報告できるものならいいのですが、校内の現場を見た上で報告せよというのは大変です。かつてはアスベストの実態調査もありました。最近では法律改正によって上水道やエアコンのパイプの保温材がしっかり巻かれているかという調査依頼がありました。人手が足りないときは大変です。職員室、会議室等、設置してあるところを全部一人で調査しなくてはならず大変です。学校規模によって事務職員の数が違いますが、小さい学校であっても仕事の数は同じですから、一人がいろいろやらなくてはなりません。」

Lさん「小規模校は大変です。定数が3人の職場に居たときですが、若い男性の後任に新採用者が赴任してきました。

事務長は実務はやらないので、新採用者が配置されると一人で全てをやらなくてはならず大変です。新採用者に教えながら、給料、歳出、歳入、福利厚生、財産管理 e t c 諸処こなすことは大変でした。夢にうなされて夜中ガバッと起き上がる事が何度かありました。人事に関しては、男女や年齢のバランスは一切考慮されず、定数の頭数が揃えばそれでよいという県教委の姿勢を感じました。」

Mさん「毎年同じような調査がくることもあり、県もデータの蓄積が必要なのではないかと思います。やっているのかもしれないませんが。」



記者「学校予算について聞きたいと思いますが、どんな様子ですか。」

Mさん「予算は減っていますね。教科予算は少ないなりに各教科何とかやって

いますが、旅費は足りないですね。」

記者「私も勤めていた時、管理職から研究会に出ることを止められたこともありましたが。旅費が逼迫していたからなのか、研究会に出ることそのものに拒否反応を示していたのか、もしかすると両方かもしれませんが。いずれにしても出張は結構厳しかったですね。」

Mさん「旅費は見通しが立たないので出張を抑える傾向があります。それでもいわゆる受験産業と言われる河合塾やベネッセなどの入試情報交換会には出張で行っていますね。」

Lさん「私が歳出担当の時は、各教科別、分掌別等で備品要求、消耗品要求を出してもらい一覧表にして職員会議に提示し、皆さんにお諮りして調整をしながら執行していました。比較的、民主的な予算運営が出来たと自負していますが、総体的には予算は不足していました。」

記者「冬は灯油の配布が大変でしたね。週2回ありましたが、生徒が給油を忘れていたりすると寒さを我慢して授業をすることもありました。」

Mさん「それは恐らく係の生徒に責任を持たせるためなどの生徒指導上の対応かと思います。おおむね燃料費(公用車のガソリン代も含む)は過去の実績をもとに予算配分されているので、高騰した場合を除けば心配はありません。それでも過去には高騰して予算の追加配分もありました。年度当初に歳出担当者が学校全体を見通して予算建てをします。燃料費として予算配分されたものを燃料費として使うだけではなく、学校の実態に合わせて紙代に回したり、電気代に回したり、印刷機のトナーに使ったりすることもあり、自由さもあります。ただ、予算は使い残しがないようにするので、やりくり

は大変です。」

記者「猛暑の時はエアコンがあったらなと思うことがありましたが、現在はどうかになっていますか。」

Mさん「エアコンは当初は一部の進学校が私費(PTA費)で導入していました。授業では使わないようにという県教委の指導もあったようですが、実際には使っているところもあったのではないのでしょうか。今は授業でも使用できるようになり、それぞれの学校で設定温度や使用時間帯など使用基準を作っているようです。ただ、使用が集中すると電力をかなり使うので機械的、人為的にスイッチをオフにしているところも多いようです。一部の進学校が導入していますが、実業高校でも私費で入れるところが出ています。しかし、私費ではなく公費(県費)で全校に導入して欲しいですね。神奈川県では公費で導入しているようです。」



記者「多様な仕事に少ない人数でこなしていかななくてはならない状況がよく分かりました。教育条件整備では事務職の方の力が必要となりますが、エアコンの問題などは県民にもっとアピールしていく必要もありそうです。」